

八戸市新美術館建設工事基本設計の概要について

1. 基本設計業務委託について

- ・業務名：八戸市新美術館建設工事基本設計業務委託
- ・受託者：西澤徹夫建築事務所・タカバンスタジオ設計共同体（東京都中央区）

2. 基本設計の検討経過について

新美術館の基本設計については、模型を使ったシミュレーションなどを行いながら、学芸員や有識者からの意見を踏まえて素案を作成した。また、市民や関係団体の方々などから素案に対する意見や要望を聴取し、基本設計として取りまとめたものである。

3. 基本設計の概要

(1) 基本方針

「アート・エデュケーション・ファーム～種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館～」をテーマに掲げる「八戸市新美術館整備基本構想（平成28年9月策定）」の内容を踏まえ、八戸に既にある文化資源を専門的に調査研究し、他都市の文化資源と結びつけながら、新たな価値を創出すること。また、その過程を含めて、市民やスタッフ、市外からの来館者などと共有できる「学びの拠点」（＝ラーニングセンター）としての美術館を整備する。

(2) 建物の特徴

学びの拠点としての美術館活動には、ファーム（＝農場）のように段階的に育てていくことと、相互に学び合うという視点が重要なことから、美術館における学びの循環を実現するため、「ジャイアントルーム」と専門性の高い個室群の、二つの特徴的な空間を対応させている。

① ジャイアントルーム

教える人と学ぶ人が同じ場を共有する、新美術館における活動の基幹となる巨大な空間。エントランスとして、広場のように誰でも立ち寄ることができ、いつも何らかの活動が行われ、明るく活気のある印象を与える。ジャイアントルーム内にはガラス張りの企画準備室があり、展覧会やアートプロジェクトなどの制作過程が可視化される。

② 専門性の高い個室群

専門的に深く学び、さらに違う専門性に偶然に出会うことができる、それぞれ特徴のある部屋をジャイアントルームの周囲に配置。企画展向きのホワイトキューブや映像作品に適したブラックキューブ、市民の制作発表の場となるギャラリーなど、それぞれの活動に最適な設えとなっている。これらの部屋は互いに隣接することで、複数の部屋を同時に使用したり、企画の準備と展示を連携させるなど、多様な使い方が可能である。

(3) 設計概要

①計画地	八戸市大字番町10-4 ほか
②構造	鉄骨造
③階数	地上3階
④建築面積	約3,000㎡
⑤延床面積	約4,500㎡ ジャイアントルーム約800㎡、ホワイトキューブ約500㎡、 ギャラリー約200㎡、ケースギャラリー約110㎡、収蔵庫約710㎡など
⑥最高高さ	19.90m
⑦駐車場台数	10台

(4) 概算工事費

約32億円（税込）

※プロポーザル案（延床面積約3,900㎡）から約600㎡の増床対応や、平成29年11月に実施した地質調査結果を踏まえた基礎工事部分の増額のほか、近年の労務費や資材価格の高騰分を見込んだ金額となっている。

(5) 設計・工事スケジュール（予定）

年 月	内 容
平成30年3月下旬	実施設計業務委託契約締結、実施設計に着手
平成30年9月	実施設計完了
平成31年1月	建設工事着工
平成32年3月	竣工
平成32年度末	オープン

(参考) 基本設計の検討経過

年月日		内 容
平成29年	3月2日	新美術館建設工事設計者選定プロポーザル審査結果を公表
	3月30日	新美術館建設工事基本設計業務委託契約締結
	4月27日	新美術館基本設計定例会議（以後、随時開催）
	6月11日	八戸市新美術館の建築を考えるトークセッション （八戸高専主催／市共催）
	6月28日	八戸市新美術館運営検討ワーキング会議
	7月10日	八戸市新美術館運営検討委員会
	10月12日	八戸市新美術館設計建築アドバイザー会議
	10月23日	八戸市新美術館運営検討ワーキング会議
	11月24日～28日	新美術館基本設計案に関する意見交換会（関係団体対象）
	12月18日～	基本設計案に対するパブリックコメント実施
平成30年	1月22日	（6名／24件）
	1月29日	新美術館整備基本設計に関する説明会（市議会議員対象）
	2月7日	八戸市新美術館運営検討委員会
	2月28日	基本設計完了